



《21名の盛会だった花見会 報告》

日時：4月6日（土）午後3：00～
会場：「わかばやし別館」（幸町）

4月6日15：00より犀川桜橋付近「わかばやし別館」にて花見会を開催しました。

参加者

小屋/蛭子/宇賀/中田俊/大坪/吉田/油谷/勝田/中城/寺元/周藤/北川/折戸/中田文/谷/池田/永崎/東寿/新木、会友は蔵/戸丸と計21名が参集しました。

15:00より桜橋を渡り花狩りに出発しました。犀川兩岸は満開状態で参加者は笑顔いっぱい！



ここから寺町台には真正面のW坂を登ります。四高の学生が名付けた金沢の名物坂の一つです。登りきると新桜坂緑地がありそこからの景色を見ると、空はどこまでも青く澄み渡り、犀

川を真下に、正面は城・兼六園、左は県庁まで見通すことができます。

犀川河畔では花見客が宴たけなわの様子です。昔のW坂と思しき朽ちた坂を下り、桜坂より急階段を行くと石造物群が現れます。諸仏に手を合わすと上方には赤みがかかった枝垂桜が目につく、青空とのコントラストが映えていました。

会場に戻り折戸登さんの講演「龍馬と繊維雑品」（繊維とガイドの話）が始まりました。折戸さんの家業は繊維産業の中でも紐です。

紐の種類は色々あり、「織り」「編み」「組み」等があり、「組紐」を生産されていたそうです。

世の中各職場で首から胸へIDカードをぶら下げる習慣が増えその為の紐が必要となり生産量が伸びましたがその後中国産が流入し生産を止めたそうです。

家で何もしない？折戸さんを見て奥様がKGGN（金沢の外国語ボランティアガイド団体）の情報を得たので英語ガイドとして入会されました。



金沢駅、城の石川門、城の玉泉院丸庭園で頻りにガイドをされておられますが、それぞれのお国から来られた観光客に合わせた話題やあまり専門的な説明に偏らずユーモアを介しての会話に留意されておられるそうです。講演後は多くの質問が出されました。その後、懇親会に移りました。

会友の蔵宏太郎さん、戸丸彰子さんの紹介がなされました。そして例によって会員同士の意見交換、議論に花が咲きました。フリーアナウンサーの戸丸さんは万葉集にお話しそうなので是非講演していただきたいものです。

《第8回北陸三県交流会》

日時：9月7日（土曜日）
場所：登録有形文化財 旧宮崎酒造（滑川市周辺）
講師：森本琢磨氏
（高知市立龍馬の生まれたまち記念館学芸員）
講演：未定

【会員のつぶやき】

“現代政治と龍馬”

折戸 登さん



昨今の日本を取り巻く環境が年毎に厳しくなっています。皆様はどの様にお考えでしょうか。

米中、日韓、日中、英国とEU関係等世界の流れは複雑でなかなか理解が難しいです。

只、日本にとってただならぬ局面に立たされている事だけは実感して居ます。ところが昨今の国会での

質疑応答の内容にはがっかりして居ます。

例えば米中関係について言えば世の中の仕組みを根底から変えてしまうと云われる次世代人口頭脳5Gを中国のファーウェイとアメリカが覇権を争って居ます。覇権がどちらに渡ろうか世の中が大きく変化すると云われて居ます。

自動運転の車が実用化されれば先ずタクシーやトラックのドライバーは要らなくなります。

もしこの人達が失業したらどうなるのでしょうか。想像も出来ません。国会での政策論議を聞いても全く緊張感を感じられません。重箱の隅を突つくと話ばかりでとても心配です。

議員の皆さんは恐らく日本の将来を憂う前に自らの選挙を如何に勝ち抜き今の地位を守る事に専念している様にしか見えません。

”嗚呼今こそ千人の政治屋より
一人の龍馬が欲しい”

まるわかり「龍馬と志士たち」 ②

志士たちが活躍した長崎とは ～勝海舟～

龍馬に最も影響を与えた人物は勝海舟である事に異論がないであろう。

ご存知のように海舟は貧乏旗本の家に生まれ、剣術と禅を習い、蘭学修行も始めた。

長崎のオランダ商館長だったドーフが作った蘭和辞書ドーフ・ハルマを2部書き写し1部は自分の為、他1部は売って金を作ったとの逸話がある。

嘉永6年(1853年)ペリーが来航しこれに危機感を覚えた老中阿部正弘は広く海防に関する意見書を募集した。海舟も応募し阿部の目に留まり、役入りを果たすことになる。

江戸幕府は海軍士官養成のためオランダの援助で安政2年(1855年)長崎奉行所西屋敷(嘗てイエズス会本部があった場所で見下ろす高所)に

「長崎海軍伝習所」を設立した。「観光丸」「咸臨丸」「朝陽丸」等を使い船舶運用・砲術を学ぶだけでなく、海軍はそれだけでは不十分とのことで、医学、化学、語学、活版印刷、修船、製鉄等各部門の教官がオランダから招請された。

幕臣のみならず雄藩からも伝習生が参加した。知られているメンバーは勝海舟(第1～3期、安政2～6年)、榎本武揚、五代友厚(薩摩)、佐野常民(佐賀)、松本良順(医学で將軍の奥医師)がいた。

その後、海舟は江戸に帰府し築地の軍艦操練所教授方頭取となり海軍技術を教える。万延元年(1860年)咸臨丸でサンフランシスコへ、この船中にはジョン万次郎、福沢諭吉がいた。

文久2年(1862年)軍艦奉行並に就任。年の暮れに龍馬と知り合ったと言われている。翌年將軍家茂より神戸海軍操練所設立の許可を得た。

龍馬を福井に遣わし春嶽より設立資金の一部を調達した。その後海舟の私塾の設立許可も得た。

元治元年(1864年)幕府の命令で、前年長州藩が外国船に砲撃を加えたが、列強各国がそれに対し報復しないよう説得するため、2～4月龍馬を伴い長崎に滞在した。龍馬にとって初めての長崎である。

ついでながら海舟はこの時、長崎海軍伝習所時代に知り合った梶クマを妊娠させ三男梅太郎が生まれた。その後クマが死去したため明治6年梅太郎を東京自宅に引き取った。

さて幕府は神戸海軍操練所を危険視し、海軍奉行に昇進していた勝海舟を罷免し江戸に召喚した。

その後、神戸操練所は正式に廃止され、海舟は薩摩藩に操練所メンバーの面倒を依頼していたため、彼らは薩摩藩の庇護のもと長崎に龜山社中を設立することとなる。

それが薩長同盟へとつながることとなる。海舟は直接的、間接的に新しい世の中のラインを引いたことになった。

参考資料:長崎新聞、坂本龍馬歴史大辞典(新任物往来社)、Wikipedia



長崎海軍伝習所絵図 微古館収蔵品データベース

「続く」(記:吉田信夫)

新入会員 119 谷内彩夏さん 120 俵 正治さん
121 新井清一さん

●年会費納入のお願い

2019年4月から来年3月迄の年会費:
¥3,000-

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。

会報も第20号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会 長: 蛭子政喜

事務局長: 吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当: 中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

